# 漫画雑誌の特徴分析

## 1. はじめに

私は漫画を読むことが好きで、これまで多くの作品に触れてきた。現在、さまざまな漫画雑誌が発行されているが、それぞれの雑誌ごとの特徴や人気のある雑誌について興味を持った。そこで、今回の分析では、漫画雑誌ごとの特徴を明らかにし、各雑誌の違いや傾向についてデータ分析を行うことにした。

## 2. データ内容

現在発行されている雑誌 100 種類について、以下項目を調査した。

| 調査項目 | 説明 |
|---|---|
| 出版社 | 雑誌の出版社<br>0：講談社<br>1：小学館<br>2：集英社<br>3：秋田書店<br>4：スクウェア・エニックス<br>5：KADOKAWA<br>6：マックガーデン<br>7：双葉社<br>8：芳文社<br>9：日本文芸社<br>10：少年画報社<br>11：白泉社<br>12：青泉社<br>13：コアコミックス<br>14：宙出社<br>15：祥伝社<br>16：ぶんか社<br>17：新書館<br>18：メディアックス<br>19：大都社<br>20：朝日新聞出版<br>21：笠原出版社 |

| | |
|---|---|
| 年間発行数 | 1 年あたりの発行回数 |
| 漫画数 | 現在連載中の漫画の数<br>(不定期連載も含む) |
| 発行年数 | 創刊から現在までの発行年数 |
| 読者男性率 | 読者の男性割合(1〜0 の値)<br>1 に近いほど男性が多く、0 に近いほど女性が多い |
| 読者年代 | 主な読者の年代<br>0：子供(〜10 代前半)<br>1：中高生(10 代前半〜20 代前半)<br>2：若年層(20 代前半〜30 代)<br>3：中年層(30 代〜50 代) |
| 発行部数 | 日本雑誌協会調べ<br>2024 年 4 月~6 月の発行部数 |
| 価格 | 雑誌の価格<br>(ばらつきがあるものは直近数冊の平均) |
| ページ数 | 雑誌のページ数<br>(ばらつきがあるものは直近数冊の平均) |
| ドラマ化数(累計) | 過去にドラマ化された作品の数 |
| アニメ化数(放送中) | 現在放送中のアニメ化された作品の数 |
| アニメ化数(累計) | 過去にアニメ化された作品の数 |
| ジャンル | 雑誌のジャンル<br>0：少年向け<br>1：男性向け<br>2：少女向け<br>3：女性向け |

作成した csv ファイルは以下の通り。Genre は Category として設定した。

| Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Numeric | Category |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| publisher | issue_count | manga_count | duration | gender | age | circulation | price | pages | drama_total | anime_current | anime_total | genre |
| 0 | 52 | 25 | 66 | 0.9 | 2 | 323250 | 400 | 500 | 22 | 4 | 91 | 0 |
| 1 | 52 | 26 | 66 | 0.7 | 2 | 138750 | 360 | 460 | 21 | 1 | 78 | 0 |
| 2 | 52 | 20 | 57 | 0.7 | 0 | 1093333 | 300 | 500 | 14 | 5 | 96 | 0 |
| 3 | 52 | 25 | 56 | 0.8 | 2 | 210000 | 320 | 400 | 17 | 0 | 32 | 0 |
| 0 | 12 | 18 | 51 | 0.9 | 2 | 122333 | 700 | 800 | 2 | 0 | 16 | 0 |
| 3 | 12 | 16 | 55 | 0.9 | 2 | 210000 | 540 | 630 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 1 | 12 | 29 | 48 | 0.9 | 0 | 323467 | 770 | 750 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 | 12 | 18 | 44 | 0.9 | 0 | 28000 | 950 | 400 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | 12 | 24 | 34 | 0.5 | 1 | 30000 | 680 | 920 | 2 | 1 | 26 | 0 |
| 4 | 12 | 19 | 32 | 0.5 | 1 | 50000 | 670 | 780 | 1 | 0 | 14 | 0 |
| 5 | 12 | 52 | 31 | 0.9 | 1 | 130000 | 840 | 1100 | 2 | 0 | 16 | 0 |
| 5 | 12 | 34 | 31 | 0.8 | 0 | 30000 | 800 | 930 | 2 | 0 | 23 | 0 |

データは以下サイトから引用した。

・雑誌一覧 https://ja.wikipedia.org/wiki/日本の漫画雑誌

・漫画発行部数 https://www.j-magazine.or.jp/user/printed2/index

## 3. 予想

・価格とページ数には正の相関がある

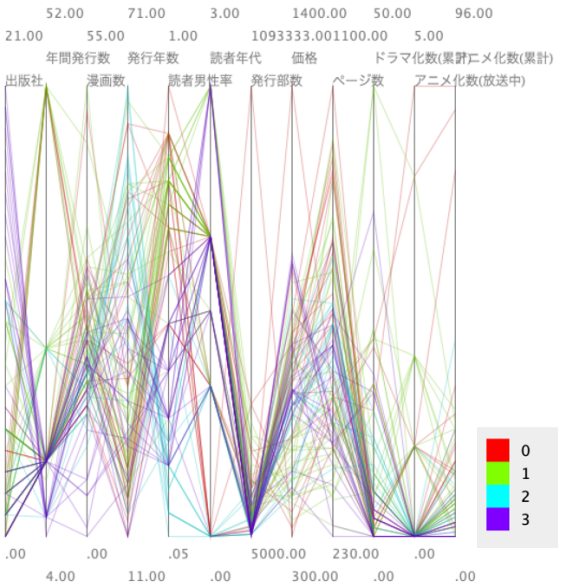
・ジャンルごとに出版社、読者層に特徴が見られる

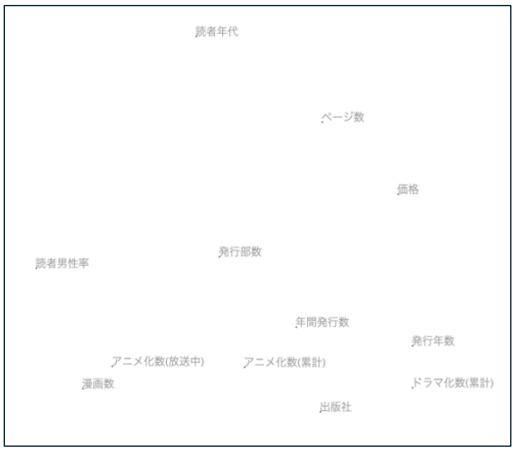
・発行年数と発行部数には正の相関がある

・発行部数とアニメ化数・ドラマ化数に正の相関が見られる

## 4. 結果と考察

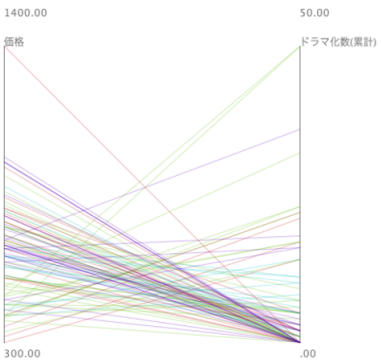
全体の結果は以下のようになった。

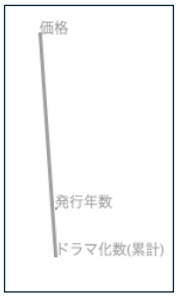


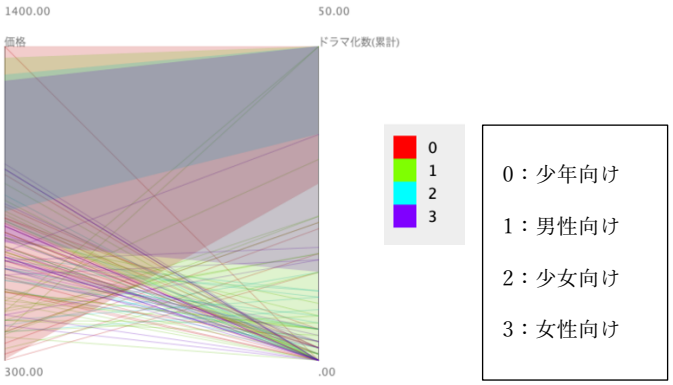

スライダーを少し動かすと、一番最初に相関が現れたのは価格とドラマ化数だった。

・価格とドラマ化数



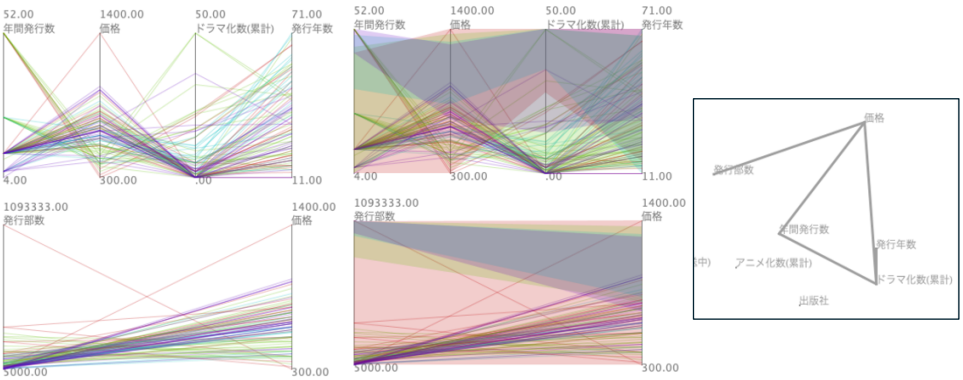



結果として負の相関が見られたが、価格とドラマ化数に直接的な関係はないと考えられる。そこで、Paints をオンにし、ジャンルの傾向を調べた。

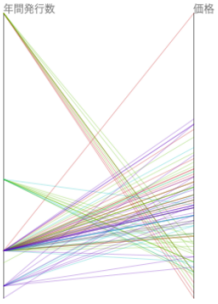



上記グラフを見ると、少女・女性向け雑誌は少年・男性向けに比べて低価格帯のものが少なく、またドラマ化された作品数が多い傾向があることが読み取れる。そのため、ジャンルと価格、ジャンルとドラマ化数にそれぞれ少しの相関があり、その結果として価格とドラマ化数に相関が表れたのではないかと考えられる。

引き続きスライダーを動かしていくと、以下のグラフが表れた.




まずは上段のグラフについて見ていく。

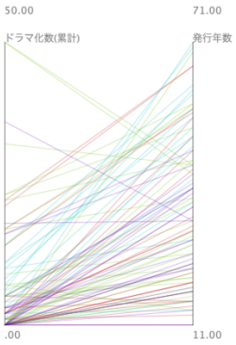



・年間発行数と価格

年間発行数と価格には負の相関があるように見受けられる。

発行頻度の高い週刊雑誌は明確に価格が低い。

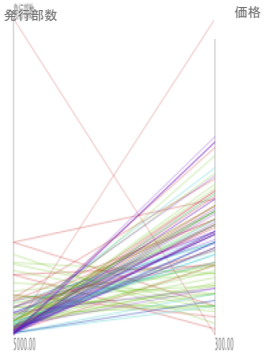
また、少年・男性向けは少女・女性向けに比べ発行頻度の高い雑誌が多いことも読み取れる。




・ドラマ化数(累計）と発行年数

基本的には弱い正の相関相関があるように見られるが、一部の雑誌は発行年数に関わらず多くの作品がドラマ化されている。確認したところ、ビッグコミックスピリッツ、モーニング、週刊ヤングマガジン、Kiss などの雑誌がドラマ化作品の多い雑誌だった。

次に下段のグラフについて見ていく。

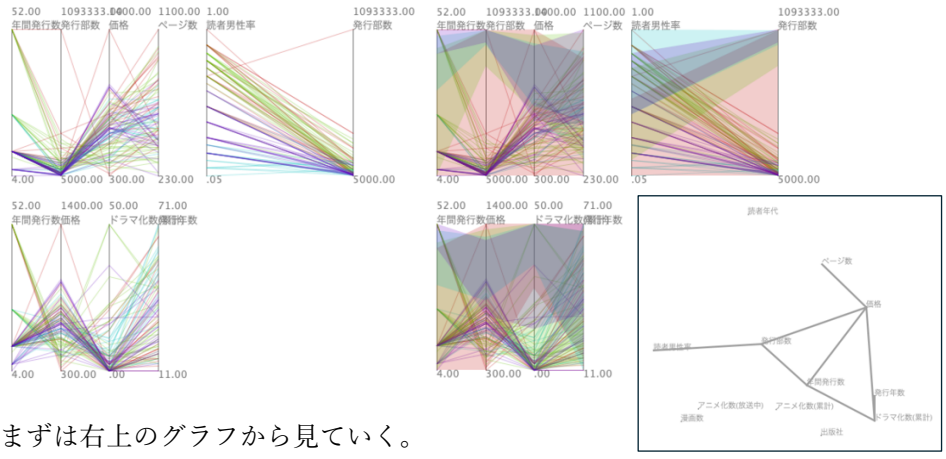



・発行部数と価格

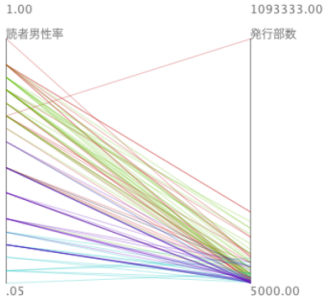
発行部数が飛び抜けて多い雑誌(週刊少年ジャンプ)がありグラフを読み取るのが難しいが、弱い負の相関があるように見受けられる。

大量発行により低価格が実現できていること、高価格帯の雑誌は購買層が限られることなどが理由として考えられる。

さらにスライダーを動かす。




まずは右上のグラフから見ていく。

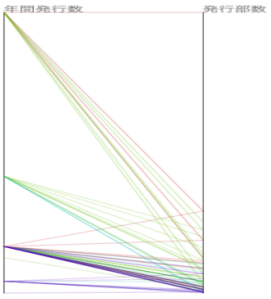



・読者男性率と発行部数

弱い正の相関が見られる。男性率が高い方が発行部数が多い傾向があるのは、漫画雑誌の購読者は女性よりも男性の方が多いためなのではと考えられる。

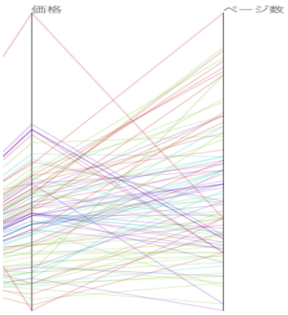
また、ジャンルごとに男性読者率が綺麗に分かれていることがわかる。

さらに左上のグラフを見ていく。




・年間発行数と発行部数

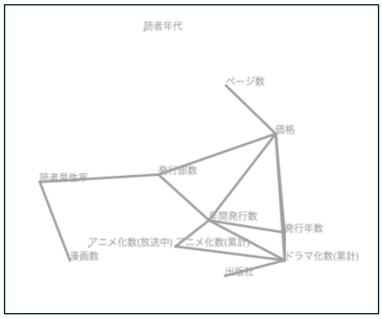
弱い正の相関が見られる。発行頻度の高い雑誌の方が読者の目に触れる機会も多く、発行部数が多くなるのではと考えられる。

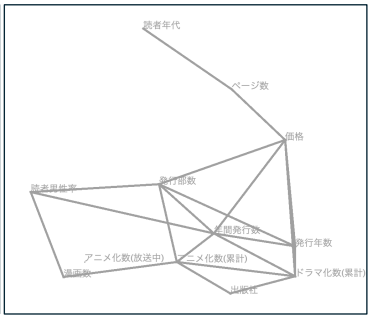


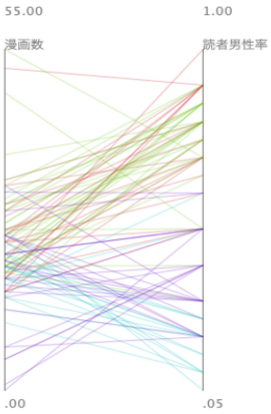

・価格とページ数

正の相関がみられると予測していたが、価格とページ数には強い相関は見受けられない。ページ数よりも、雑誌の内容や付録品などが価格に影響しているのかもしれない。

再びスライダーを動かすと、その他の項目との相関が表れた。



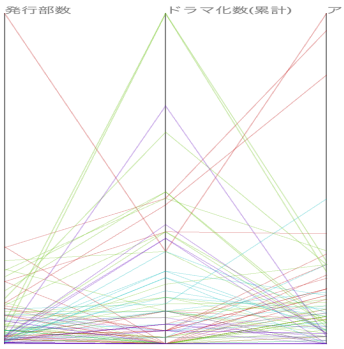




・漫画数と読者男性率

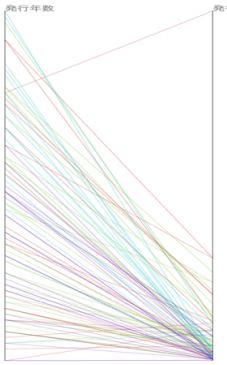
あまり明確な相関は見られなかった。

一部の雑誌をのぞいて、ほとんどの雑誌は連載中の作品が 20-30 作ほどと同じくらいだったが、女性向けよりも男性向けの方が漫画数は多い傾向があるようにみられる。

・発行部数と映像化数

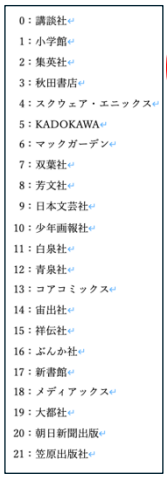


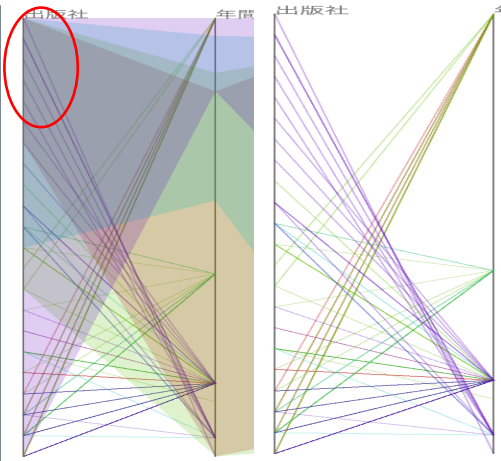

アニメ化数とドラマ化数は弱い負の相関がみられ、アニメ化される作品とドラマ化される作品はジャンルが異なっていることが読み取れる。
少年向け雑誌作品はアニメ化数と、その他ジャンルはドラマ化数と正の相関があるように見受けられる。予想通り、発行部数の多い雑誌には人気作品が多く、映像化される作品も多いのだと考えられる。




・発行年数と発行部数

弱い正の相関関係があるように見受けられる。
長く発行されている作品はその分読者も多くいるのだと考えられる。
また、女性向け雑誌は他のジャンルに比べて発行年数が短い雑誌が多いことが新たな発見としてあった。




・出版社と年間発行数

人気雑誌を出版している若い番号の出版社(赤丸)は、発行頻度の高い雑誌を多く出版している。
また、Paints をオンにすると、若い番号の出版社は複数ジャンルの雑誌を出版していることが分かる。

## 5. まとめの考察

・ジャンルごとの違い、傾向

少年向け：男性読者が多い、人気作はアニメ化傾向、低価格・週刊の雑誌が多い
青年向け；男性読者が多い、人気作はドラマ化傾向、低価格・週刊の雑誌が多い
少女向け：女性読者が多い、人気作はドラマ化傾向
女性向け：女性読者が多い、人気作はドラマ化傾向、創刊が比較的最近のものが多い

・相関関係が見られたもの

発行頻度と価格：

頻度の高い週刊雑誌はこまめに出版されるためか、価格が比較的低いものが多い。

発行頻度・発行年数と発行部数：

頻繁に発行されている・長い期間発行され続けている雑誌はそれだけ人気のある雑誌であり、発行部数も多い傾向が見られる。

発行部数と映像化作品の数：

発行部数の多い雑誌には人気作品が多く、映像化される作品も多い。雑誌のジャンルによって、アニメ化される作品が多いものと、ドラマ化される作品が多いものとで傾向が分かれた。

・相関関係が見られなかったもの

価格とページ数：

ページ数よりも雑誌の内容や付録品の方が価格を決める要因として大きい可能性がある。また、雑誌の号によってページ数にばらつきが生じるので、それもうまく関係を分析できなかった一因かもしれない。

出版社・読者年代と他の項目：

人気雑誌を出版している出版社は複数のジャンルで雑誌を出版しており、ジャンルごとの出版社の傾向などは見られなかった。また、出版社と読者年代は質的変数であったためか、その他の量的変数との相関を適切に分析することができなかったのではないかと考えられる。

## 6. 感想

今回の分析では自分で作成したデータを用いたため、項目設定に苦心する場面が多くあった。実際、いくつかの項目については分析に十分に活用できない結果となったものの、それでもデータの可視化を通じて興味深い結果を得ることができた。特に、予測していた傾向がデータによって裏付けられたり、これまで気づかなかったジャンルごとの傾向を発見できたことは非常に興味深く、有益な知見を得られた。